

株式会社 山梨薬剤センター

東山梨支部 山梨市万力110

管理薬剤師 廣瀬 徹



株式会社山梨薬剤センターは、調剤薬局として歴史は深く、昭和55年に設立され今年30年目を迎えます。開設当時は医薬分業も進んでいない時代であり、山梨県では2番目に古い調剤薬局です。その後、医薬分業の推進などにより当薬局も大きくなり、現在では山梨県で一番大きい規模の調剤薬局（チェーン薬局を除く）に成長しました。当薬局は、薬剤師15名、事務員13名（共にパート含む）という大所帯です。薬剤師の平均年齢も31歳ととても若くパワーにあふれています。皆、勉強熱心であり、社内勉強会及び外部の勉強会にも進んで出席しています。入社して4年目以上の薬剤師は全員認定薬剤師を取得しています。

当薬局は、山梨市にあり、近くを笛吹川が流れ、武田信玄ゆかりの万力公園、新日本三大夜景にも選ばれたフルーツ公園のふもとにあります。会社の北側の窓からはフルーツ公園を臨め、春夏秋冬及び昼夜それぞれの景色を眺めることができ、また、南側の窓からは富士山の中腹まで見ることが出来ます。特に、今の季節、富士山の真っ白に雪をかぶった姿や富士山が赤く染まった姿を見ると仕事で疲れた心身をやさしくほぐしてくれます。

私が山梨薬剤センターに入社してから早いもので15年。この間、人的にも調剤システムについてもかなりの変革が起きました。何回か記事になっていますが、当社の調剤システムについて紹介したいと思います。

入社当時、1日の処方せん枚数は平均600枚、現在は平均450枚、以前の処方より内容が複雑になったり、長期投薬により自然と調剤にかかる時間が長くなってきています。入社2年目、調剤室と薬品倉庫が手狭になったということで増築することになりました。これを機会に調剤システムも一新することになり、現在の調剤システムの基本が出来上がりました。いかに薬剤師が効率よく動け、薬も間違いなく効率よくつくることができ、待ち時間が少なく患者様の手に渡すことが出来るか？そんな以前からの課題をテーマに社員とシステム会社との間で何回か話し合いがもたれ「1枚の処方せんを持って調剤すると時間がかかる。各担当が同時に調剤することが出来ないか？」という意見から『分散調剤』が始まりました。日本の調剤薬局では当薬局が始める以前には規模の小さい薬局1件のみで行っているシステムでしたが、調剤室の真ん中にベルトコンベアを通すなどあらゆる面で構築したのは当薬局が初めてでした。画面監査で処方確認した内容が指示せん（患者様氏名・生年月日・年齢・医師名・受付番号・薬品名・用法用量など処方せんと同じ内容が印刷された紙）としてヒート、錠剤分包機、散剤、外用・水剤に設置されたプリンターから出ることにより同時に各担当者が調剤可能になりました。また、各担当者が調剤の終わった薬は、ベルトコンベアに乗せる



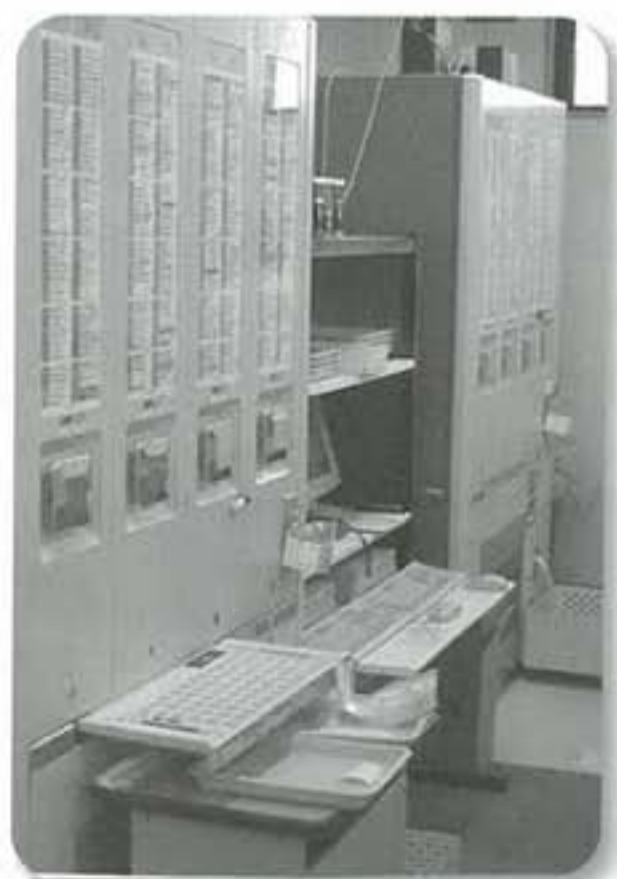
ことにより集められ、一人ひとりに割り当てられた棚に入り、すべての処方せん記載の薬が揃うと最終監査が可能になります。

数年前にもシステムのバージョンアップをしたり、錠剤分包機の高速度化、錠剤散剤の完全分包可能な分包機などを導入しました。「分散調剤」は、調剤の一連の作業に関わる時間の短縮や薬剤師の移動が少なくなるにより各担当薬剤師が調剤に集中できる利点があげられますが、一方、薬剤師の数が必要である欠点もあります。

また、当薬局のように処方せん枚数が多い薬局用のレセコンが一般化されておらずレセコン導入を考える上でいつも苦勞していました。調剤機器システムのバージョンアップを進めている中、「レセコンもシステム会社で作ってもらえないか？処方せん入力から調剤・投薬・会計に至るまでを一貫してシステム会社で作り上げたい。」そんな熱い希望を訴え、重い腰を何回か説得する上で動かし、導入まで数年の年月に至り、今年の5月で導入後丸3年を迎えようとしています。多面（入力・監査・薬歴・在庫管理など）に渡り使いやすくなったと同時に常にアイデアをお互いに持ち寄り改良していけることがパッケージ販売と違うよい点かもしれません。

当薬局は、以前から数多くの薬学生実習を受け入れています。毎年、四苦八苦しながら行っていますが、学生の意見を聞きながら1年毎カリキュラムを見直し、学生にいかに楽しく実のある実習が出来るか考えています。6年制実習も基幹薬局として後輩育成にも力を注いで行かなければならないと思います。

このように社員にも仕事環境にも恵まれている中、日々過ごしていますが、私も昨年12月で管理薬剤師になって丸7年が過ぎました。今回、優良薬局知事表彰を受賞できたのも、入社してからいろいろ教えて頂いた山下前管理薬剤師、諸先輩方が基礎をしっかり築いて頂いたおかげであると思うと同時に当薬局に関係して頂いて頂いて下さる方々のご指導ご鞭撻、ご協力があったからこそと思っています。また、その基礎を大事に守り発展し続けてきてくれている現在勤務している社員一人ひとりが「山梨薬剤センター」の名を汚さぬよう努力し、胸を張って仕事をしてくれている賜物だと思っています。本当に感謝しています。



初めに申し上げましたが、もうすぐ創立30年を迎えます。今回の受賞に恥じぬよう、当薬局の目標でもあります「やさしく・親切・ていねいに」を常に心し、地域の皆様に愛される薬局を目指して更に努力していきたいと思えます。「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」として山梨の地にしっかり足を着け、患者様一人ひとりから信頼され、今まで以上に「ありがとう」と言ってもらえる薬局にしたいと思っています。また、「山梨薬剤センター」は、薬局名に「～薬局」が入っていないため、皆様に利用して頂いている割には知名度が低いのが課題です。今後は、「山梨薬剤センター」という名前を地域の皆様はもとより、県内の皆様に知って頂けるよう努力したいと思っています。

今後、医療業界も今以上に厳しい時代が来ると予想されます。今を見つめながら将来を常に考えて行かなければなりません。その中で、地元の中核薬局として周りの薬局からも信頼される薬局を目指して社員と共に歩んでいきたいと思えます。

